

令和2年度地域支え合い推進フォーラム

穂高・三郷・堀金・明科地域
生活支援体制整備事業活動報告

社会福祉法人 安曇野市社会福祉協議会

これまでの協議体・生活支援コーディネーターの取り組み

穂高地域

区ごとの特徴について協議体で分析を行い、そのデータを用いて、各地区において支え合いの地域づくりにおけた学習会を実施してきた。

区内において、支え合いのしくみづくりを始めたいという地区の区長も参画し協議体で意見交換を実施中

堀金地域

サロンなどの住民の交流の場がどの程度あるのか調査を行った。より細かな地域ニーズを発掘するため、区長等へ協議体に参加を依頼し、ワークショップを実施してきた。

小地域での支え合い活動の必要性が見えてきた中で先進事例を共有し、しくみづくりに向けて学習中

三郷地域

移動支援の問題提起や、老人クラブなどの団体における担い手不足の課題から、多様な担い手の育成をテーマに検討を行ってきた。

**コロナ禍により、住民がつながれる場の必要性を再認識し、市内の先進地を視察した。
場づくりに向けて検討中**

明科地域

地域の課題を住民から聞き取る場として、協議体主催のサロン『あいりすdeサロン』を実施してきた。

ワークショップから課題としてあがった空き家、買い物支援、居場所づくりなどをテーマに地域資源を生かした支援を検討中

コロナ禍でのスタート。地域活動をどのように応援するか？

活動の提案

『今だからできる
地域の活動を考えてみませんか!』

『ふれあい・いきいきサロン
アンケート集計結果&ヒント集』

今だからできる 地域の活動を考えてみませんか!

地区社協会長をはじめ役員の皆様へ

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、年度初めから計画通りに行事ができなくて困っている役員のみならず、「こんな時だから仕方ない」とあきらめている方も多いのではないのでしょうか。しかしながら、目に見えない敵、兵丁場での対応が予想され、感染防止の基本を守る生活が長く続く—このような状況では、支え合いはもろろのこと、それぞれのみなさんの心の健康が心配になります。

最近、メディアでも取り上げられている子育て世代のストレス、虐待、高齢者の体力や認知機能の低下、ご近所同士の関係がますます希薄化するなどで、もし災害が起きてしまったら—と考えるととどろきがあります。

そこで、安曇野市社協では、今だからこそ地域の活動を考えるチャンスとして、「今」を前向きにとらえて頂くこと、この「情報誌」を作成しました。少しでも活動のヒントになれば幸いです。



この「情報誌」の発行には、皆様からご協力いただいた社会員が使われています。



▲『今だからできる活動』へ発想を転換した活動を紹介。地区社協会長へ可能な限り手渡しして配布をしました。

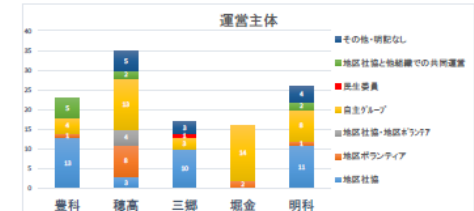
ふれあい・いきいきサロン アンケート結果&ヒント集

各地域で開催されている、ふれあい・いきいきサロンは、地域の様々な世代の居場所ですが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、サロンを自粛せざるを得ない状況にあります。そこで、通常の活動が行えない中でも人と人とのつながりが切れないようにするため、どのような方法があるのか地域の皆様にアンケート調査を実施させて頂きました。

123団体にアンケートを送付させて頂き、121団体より回答を頂くことができました。ご協力ありがとうございました。

今回のアンケート調査の結果と、今後の活動のヒントになる事例やポイントをまとめましたので、ぜひご覧頂きましてご活用頂ければ幸いです。

◆サロンの運営主体について



豊科・三郷・明科は地区社協が主催のサロンが多いようです。一方、穂高・穂高は自主グループによるサロンが多いようです。また、穂高は地区ボランティアが主催、地区ボランティア会と地区社協の共催が多いようです。

ポイント 他団体と連携する
単独の団体や組織でサロンを運営するのも一つの方法ですが、同じ目的をもつ他の団体や組織と連携することで活動の幅が広がったり、運営の役割分担もできます。役員の方の負担感も少なくなり、継続的な活動にも繋がります。

安曇野市社協
ふれあい・いきいきサロン

アンケート集計結果
&
ヒント集

社会福祉法人安曇野市社会福祉協議会

▲コロナ禍により何が一番課題となっているかアンケート調査を行い、活動における留意事項などをまとめたヒント集を発行しました。

コロナ禍でのスタート。地域活動をどのように応援するか？

相談支援

『サロンを再開したいけど、どうしたらいいかわからない…』

『サロンを開催できない代わりに家で取り組めるものを配布したい』



▲相談によっては、地区役員会等に参加させて頂き、再開に向けての留意事項や代替手段の提案などをさせて頂きました。

電話・アンケートによるヒアリング支援

生活支援活動推進事業 超高齢地域圏体のみなさま
 ※下記の問いについて、回答のご協力を願います。
 (9月19日までに返信してください。)

① 日常の生活・業務の中で、感じること・課題と思うことなどを教えてください。
 地域の方から問いにお話しして結構です。

(例) 災害時、地域とのつながり(助け合い)や、備忘録の作成が今の必要性を感じるが…
 (例) 定例会、新しい情報発信がある分野の活動がなかなかないという人がいる
 (例) OOOを一緒にできる人がいないという悩みとどうにかする

② 超高齢地域では、令和元年より地域学習会の推進をしましたが、コロナ禍も影響し、今年度は学習会の開催がほとんどありません。今年、新しい生活様式も踏まえ、
 ③ 超高齢地域の協働体で協議したい

【月1日印刷】「A」地区先 空襲被害体験会 文系 0261-●●●●●●●●●● 担当 OOO
 空襲被害体験会 ふれあいいきいき地サロリアンケート

お名前(敬称) _____ 担当は必ずお名前を記入して下さい。

〒000-0000 内部の宛先
 地区協議体 地区協議体 地区協議体 地区協議体

所属部署 _____ 所属部署 _____ 所属部署 _____ 所属部署 _____
 内容 _____ 内容 _____ 内容 _____ 内容 _____

④ 協働体で協議したい内容について、お話ししたい内容や課題を教えてください。
 ⑤ 協働体で協議したい内容について、お話ししたい内容や課題を教えてください。
 ⑥ 協働体で協議したい内容について、お話ししたい内容や課題を教えてください。

記入者(氏名) _____

社会福祉法人空襲被害体験会 空襲被害体験会協議体



▲地区社協会長・区長・協議体委員等に電話やアンケートにより現状の課題について聞き取り、支援を行いました。

従来の地域課題+withコロナ時代の支え合いへ

今後の課題

- ・従来からの課題に加え、コロナ禍によって
必要性が浮彫となった課題へのアプローチ

介護予防を目的としているこの事業において、住民の交流の場が維持出来ないことは大変な課題である。一方でコロナ禍だからこそ、浮き彫りとなった課題の把握により、今までつながっていなかった住民とつながる機会にもなっている。これを今後の地域づくりにどう生かしていくか。

- ・時代の変化による新しい支え合いの形への変容。

介護保険制度の改正と共に支え合いの形が見直される中、コロナ時代の今、だれもがとりこぼされることなく、つながりの切れない地域づくりが求められている。